

# 令和5年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査結果

令和6年1月  
岩手県教育委員会

- 1 目的**  
各小・中・義務教育学校において、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまづきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図る。  
また、明らかになった学習指導上の問題点を、各種研修会や学校訪問指導等の様々な教育施策に反映させることにより、本県すべての教員の指導力向上に資する。

**2 実施内容**

調査種類	実施日	調査対象	対象数
教科調査 児童生徒質問紙調査	令和5年10月4日(水)	公立小学校第5学年・義務教育学校第5学年	9,094人
		公立中学校第2学年・義務教育学校第8学年	9,521人
学校質問紙調査 (Microsoft Forms での オンライン回答)	令和5年9月27日(水) ～10月4日(水)	公立小学校及び義務教育学校(前期課程)	269校
		公立中学校及び義務教育学校(後期課程)	145校

**3 教科等の実施状況** ※教科調査を実施しない学校…小学校1校(5年児童の在籍が0人)、中学校1校(在籍の2年生徒2名が欠席)

実施学年(実施校数)	国語	算数・数学	児童生徒質問紙	学校質問紙
小学校第5学年(268校)	8,503人	8,501人	8,502人	269校
中学校第2学年(144校)	8,502人	8,507人	8,503人	145校

**1 教科調査の結果**

(1) 各教科の平均正答率及び中央値

小学校5年			中学校2年		
教科	平均正答率 ( )はR4	中央値	教科	平均正答率 ( )はR4	中央値
国語	64.7% (67.8%)	66.7%	国語	57.4% (65.9%)	60.0%
算数	55.3% (55.7%)	56.0%	数学	44.6% (45.2%)	44.0%

(2) 小学校5年国語 ※○は「できている」と考えられる小問。●は「課題がある」と考えられる小問。

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ( )内はR4	経年比較
知識・技能	9問	70.5% (69.0%)	△ 1.5%
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと)	4問	69.2% (65.1%)	△ 4.1%
思考・判断・表現 (書くこと)	4問	63.1% (73.9%)	▼10.8%
思考・判断・表現 (読むこと)	7問	59.1% (64.4%)	▼ 5.3%

	R4	R5	比較
ア〔知識及び技能〕			
○ 漢字の由来、特質について理解する	35.5%	57.5%	△22.0%
○ 文脈に沿って、漢字を適切に使う	71.0%	83.2%	△12.2%
○ 文脈に沿って、語句を適切に使う	78.9%	85.8%	△ 6.9%
● 国語辞典の使い方を理解する	69.7%	61.0%	▼ 8.7%
イ〔思考力、判断力、表現力等〕(話すこと・聞くこと)			
○ 必要なことを質問しながら聞き、自分が聞きたいことの内容を捉える	-	85.4%	-
○ 話の中心を意識して、間の取り方などを工夫する	-	74.2%	-
● 司会などの役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目する	-	46.8%	-
ウ〔思考力、判断力、表現力等〕(書くこと)			
● 自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫する	85.8%	68.1%	▼17.7%
● 本問(小問24)の無解答率 ※経年比較を▼で表記。	9.9%	15.3%	▼ 5.4%
● 段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く	67.2%	59.1%	▼ 8.1%
● 本問(小問23)の無解答率 ※経年比較を▼で表記。	9.4%	14.6%	▼ 5.2%
エ〔思考力、判断力、表現力等〕(読むこと)			
○ 登場人物の心情について描写を基に捉えて読む(心情を捉える)	74.9%	74.0%	▼ 0.9%
● 目的に応じて、必要な情報を見つけて読む(記述)	53.6%	33.2%	▼20.4%
● 登場人物の行動について叙述を基に捉えて読む	76.6%	57.1%	▼19.5%
● 登場人物の心情について描写を基に捉えて読む(描写に着目する)	53.1%	44.5%	▼ 8.6%

②経年比較問題の状況

	R4	R5	比較
ア〔知識及び技能〕			
● 修飾と被修飾との関係を理解する	37.3%	39.6%	△ 2.3%
イ〔思考力、判断力、表現力等〕(話すこと・聞くこと) ※該当なし			
ウ〔思考力、判断力、表現力等〕(書くこと)			
● 自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く	62.2%	57.3%	▼ 4.9%
エ〔思考力、判断力、表現力等〕(読むこと)			
○ 段落相互の関係に着目して読む	61.1%	66.0%	△ 4.9%
● 場面の展開を捉えて読む	67.8%	50.3%	▼17.5%

(3) 小学校5年算数 ※○は「できている」と考えられる小問。●は「課題がある」と考えられる小問。

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ( )内 R4	経年比較
数と計算	9問	52.4% (58.8%)	▼ 6.4%
図形	8問	62.2% (52.0%)	△10.2%
測定	0問	-	-
変化と関係	3問	49.1% (38.8%)	△10.3%
データの活用	5問	78.2% (59.8%)	△19.0%
知識・技能	13問	65.4% (69.9%)	▼ 4.5%
思考・判断・表現	12問	54.7% (45.1%)	△ 9.6%

ア [数と計算]	R4	R5	比較
○ 四則混合の計算ができる	63.9%	88.3%	△24.4%
● 2つのものの基準量と比較量から割合を求めて説明することができる	31.9%	21.3%	▼10.6%
イ [図形]			
○ 二十角形の角の大きさの和を求めることができる ※R4は「十二角形」	30.6%	56.6%	△26.0%
● 三角定規を組み合わせてつくった四角形の角度を求めることができる	-	28.5%	-
ウ [変化と関係]			
○ ともなって変わる2つの数量の関係を使って問題を解くことができる	-	87.3%	-
● ともなって変わる2つの数量の関係を理解し、求める式の意味を説明することができる	-	11.1%	-
エ [データの活用]			
○ 調べた数字が二次元表のどのマスにあてはまるのかがわかる	82.6%	83.9%	△ 1.3%
○ 折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる	-	86.5%	-
○ 二次元表を読み取り対象の数字が何を表しているのかがわかる	46.5%	83.3%	△36.8%
● 折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる	-	44.1%	-

②経年比較問題の状況

	R4	R5	比較
● 2つのものの基準量と比較量から割合を求めて、ねだんがより高くなったパンはどちらかを説明することができる	31.9%	21.3%	▼10.6%
○ 二次元表を読み取り対象の数字が何を表しているのかがわかる	46.5%	83.3%	△36.8%
● 示された除法の式の意味を理解している	46.3%	44.7%	▼ 1.6%
○ 二十角形の角の大きさの和を求めることができる	30.6%	56.6%	△26.0%
○ ともなって変わる2つの数量の関係を式に表すことができる	55.8%	49.0%	▼ 6.8%
● 折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる ※R4は「予想が間違えている理由を説明することができる	27.7%	44.1%	△16.4%
● 直方体を組み合わせた形の体積の求め方を理解し共通する求め方を説明することができる	32.2%	31.0%	▼ 1.2%

(4) 中学校2年国語 ※○は「できている」と考えられる小問。●は「課題がある」と考えられる小問。

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ( )内はR4	経年比較
知識・技能	7問	67.6% (71.0%)	▼ 3.4%
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと)	4問	57.0% (71.3%)	▼14.3%
思考・判断・表現 (書くこと)	6問	54.1% (61.7%)	▼ 7.6%
思考・判断・表現 (読むこと)	8問	51.1% (60.6%)	▼ 9.5%

ア〔知識及び技能〕	R4	R5	比較
○ 文脈に沿って、語句を適切に理解する	72.6%	83.7%	△11.1%
○ 語句に関する類別の理解を深める	83.3%	75.9%	▼ 7.4%
○ 漢字の成り立ちについて理解を深める	43.4%	73.5%	△30.1%
● 文脈に沿って、漢字を適切に使う	70.0%	32.9%	▼37.1%
イ〔思考力、判断力、表現力等〕(話すこと・聞くこと)			
○ 自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する(根拠の適切さ)	86.0%	85.5%	▼ 0.5%
● 自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する(話す事柄の順序)	86.0%	31.6%	▼54.4%
ウ〔思考力、判断力、表現力等〕(書くこと)			
○ 読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点を見いだす	-	76.2%	-
○ 読み手の立場に立って、文章を整える	-	71.5%	-
● 資料を読み取り根拠を明確にして自分の考えを書く	41.8%	27.4%	▼14.4%
● 本問(小問25)の無解答率 ※経年比較を▼で表記。	19.2%	29.9%	▼10.7%
● 読み手の立場に立って、文章を整える	75.7%	46.3%	▼29.4%
● 伝えたい事柄を明確にして適切な構成を工夫する	61.7%	44.8%	▼16.9%
● 本問(小問24)の無解答率 ※経年比較を▼で表記。	19.7%	31.5%	▼11.8%
エ〔思考力、判断力、表現力等〕(読むこと)			
● 文章の構成や展開を捉える	54.4%	36.9%	▼17.5%
● 文章の描写に即して登場人物の心情を捉える	58.5%	47.4%	▼11.1%
● 文章の展開に即して内容を解釈する	62.2%	50.0%	▼12.2%

②経年比較問題の状況

ア〔知識及び技能〕	R4	R5	比較
○ 語句に関する類別の理解を深める	83.3%	75.9%	▼ 7.4%
イ〔思考力、判断力、表現力等〕(話すこと・聞くこと)			
○ 自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫する	86.0%	85.5%	▼ 0.5%
ウ〔思考力、判断力、表現力等〕(書くこと)			
● 資料を読み取り根拠を明確にして自分の考えを書く	41.8%	27.4%	▼14.4%
エ〔思考力、判断力、表現力等〕(読むこと)			
● 表現の効果を捉えて読む	58.2%	49.9%	▼ 8.3%
● 文章の構成や展開を捉える	54.4%	36.9%	▼17.5%

(5) 中学校2年数学 ※○は「できている」と考えられる小問。●は「課題がある」と考えられる小問。

①観点・領域等の平均正答率

観点・領域等		平均正答率 ( )内はR4	経年比較
数と式	9問	46.2% (56.7%)	▼10.5%
図形	6問	43.1% (31.2%)	△11.9%
関数	6問	54.8% (36.5%)	△18.3%
データの活用	4問	27.9% (51.8%)	▼23.9%
知識・技能	14問	52.0% (53.8%)	▼1.8%
思考・判断・表現	11問	35.1% (32.0%)	△3.1%

\* : R3

ア [数と式]	R4	R5	比較
○ 簡単な1元1次方程式を解くことができる	65.7%	71.9%	△6.2%
○ 連立方程式を解くことができる	*55.0%	69.0%	△14.0%
● 自然数を素数の積に表すことができる	-	39.2%	-
● 文字を使った説明の式を目的に応じて正しく変形した説明から新たな性質を見いだすことができる	-	22.9%	-
イ [図形]			
○ 円錐と円柱の体積の関係を理解している ※R4は「正四角錐と正四角柱」	36.4%	58.6%	△22.0%
○ 垂線の作図を利用して三角形の高さを作図することができる ※R4は「垂直二等分線の作図」	41.6%	51.9%	△10.3%
● ひし形を別のひし形に重ね合わせるために、どの点を中心として何度回転移動させればよいかを説明することができる ※R4は「正三角形を別の正三角形に」	12.9%	7.4%	▼5.5%
● 見取図から立体の投影図を選ぶことができる	-	39.2%	-
ウ [関数]			
○ 与えられたグラフを事象に応じて的確に読み取ることができる	-	79.0%	-
○ 比例の関係でのx、yの値の変化の関係について正しく説明しているものを選ぶことができる	-	67.7%	-
● 比例のグラフから式を求めることができる	14.7%	19.2%	△4.5%
エ [データの活用]			
● 多数回の試行の結果から得られる相対度数の意味を理解している	*20.7%	18.2%	▼2.5%
● 与えられた情報から必要な情報を選択し、割合が高くなる理由を相対度数を用いて説明することができる	-	17.8%	-

②経年比較問題の状況

	R4	R5	比較
○ 簡単な1元1次方程式を解くことができる	65.7%	71.9%	△6.2%
○ 連立方程式を解くことができる	*55.0%	69.0%	△14.0%
● 具体的な場面の関係を表す式を等式の性質を用いて目的に応じて変形できる	51.6%	35.3%	▼16.3%
● 比例のグラフから式を求めることができる	14.7%	19.2%	△4.5%
○ 円錐と円柱の体積の関係を理解している ※R4は「正四角錐と正四角柱」	36.4%	58.6%	△22.0%
● 多数回の試行の結果から得られる相対度数の意味を理解している	*20.7%	18.2%	▼2.5%
● 変形した式がどんな数を表しているかを捉え、その式を数学的に説明することができる	25.4%	37.1%	△11.7%

## (6) 教科調査結果の活用と今後の取組

①本資料の作成においては、授業改善の視点から、各領域・観点で特徴的な結果となった小問をできるだけ多く取り上げた。

### ②「平均正答率」についての留意点

各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではない場合があること。

③教科調査の結果から ※調査により測れるのは学力の一側面であることに留意。

#### 各学校における授業改善の状況について

ア 小、中、どちらの校種においても、定着が図られていたり、改善が見られたりした小問が多く見られ、検証改善サイクルに基づく授業改善の取組が進められていることが伺えるが、不十分な点もあり、児童生徒のつまずきに着目した授業改善により一層取り組む必要がある。

イ 特にも、調査対象となった領域・観点等における課題が見られた個々の問題や領域等に注目して、学習指導上の課題を丁寧に把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図ることが引き続き求められる。

ウ 指導の一層の充実を図るため、以下の事項を参考にし、今後の取組を推進することが必要。

### ④「確かな学力育成プラン」を用いた、今後の検証改善の際に注視したい check（把握・分析）の例

- ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力は身に付いたか
- ・どんな指導が効果的だったか
- ・基礎的・基本的な内容の定着は十分だったか
- ・指導が不十分である内容は何か
- ・学習指導要領で育成を目指す「知識及び技能」のうち、何が児童生徒に身に付いたか
- ・学習指導要領で育成を目指す「思考力、判断力、表現力等」のうち、何が児童生徒に身に付いたか
- ・「学校が育成を目指す資質・能力」が児童生徒に身に付いたかどうかを測るための指標をどのように計画するか
- ・今後の諸調査を、学校としてどのように活用するか

### ⑤校内研修等の充実

- ・本調査結果について課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、校内研修等を適切に実施すること。
- ・その際、各種資料等（「具体は、本調査の「学校質問紙調査」番号 31～33 に例示）を積極的に活用すること。
- ・また、調査結果の分析・検証の結果については、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

⑥自校が作成した「確かな学力育成プラン」を活用し、継続的な検証改善サイクルを確立すること

<取組の例> ※「令和5年度学習定着度状況調査実施の手引」に記載の内容と同様。

- ・「調査問題のねらい」、「授業実践アイデア例」等を活用し、自校の課題を洗い出す。
- ・校長のリーダーシップの下、全教職員によるカリキュラム・マネジメントを実施し、各学年・各教科等で確実に育成したい資質・能力を明らかにするとともに、単元の指導計画等に位置付ける。また、検証改善サイクルの見直しを図り、授業改善を推進する。
- ・校内研究計画等との関連を図り、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりの実践を充実させるとともに、教員の授業力向上につなげる。

<参考> 令和5年度岩手県小・中学校学習定着度状況調査 学校質問紙調査

質問項目	回答項目	小学校		中学校	
		R4	R5	R4	R5
岩手県小・中学校学習定着度状況調査(教科)の結果分析の際、どの資料を用いていますか。(複数回答可)	調査問題のねらい	-	71.0%	-	49.7%
	授業改善の手引き(授業実践のアイデア例を含む)	-	76.6%	-	64.8%
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。	行っている(積極肯定)	50%	46%	40%	28%

<参考> 令和5年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査

質問項目	回答項目	小学校	中学校
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	よくしている(積極肯定)	42.8% (全国比 △3.6%)	29.5% (全国比 ▼5.9%)
令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	よく行った(積極肯定)	31.2% (全国比 ▼1.9%)	15.4% (全国比 ▼9.3%)

※本県の「学校教育指導指針」においては、各種調査結果やデータ等に基づく現状把握と原因分析を初めに行うことが重要であることから一連の検証改善サイクルを「CAPDサイクル」としている。

⑦上記の取組を通じて、児童生徒一人ひとりの学習の定着状況と分析結果からつまずきの内容や要因等を把握し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図ること。

## 2 児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査の結果

### (1) 「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランに掲げる指標に係る質問に対する回答結果

<児童生徒質問紙調査> ※□は目標値を上回った回答率。

質問項目	小学校			中学校		
	R4	R5	R5 目標値	R4	R5	R5 目標値
自分の住む地域には、良いところがあると思いますか。(積極肯定回答)	71%	70%	72%	54%	54%	55%
学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか。(自主学習とは、自分で学習内容を決めて取り組むことを意味します)(肯定回答)	62%	60%	63%	56%	53%	57%
人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。(積極肯定回答)	66%	65%	70%	68%	66%	68%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(肯定回答)	-	73%	77%	-	75%	81%
学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか。(肯定回答)	83%	90%	85%	82%	88%	85%
学校で行う鑑賞教室や文化芸術に関する学習、地域に伝わる伝統活動などを通じて、文化芸術への興味がわきましたか。(肯定回答)	71%	69%	72%	68%	64%	69%
児童会活動(生徒会活動)や学級活動などで、学級生活をよりよくするために話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めていますか。(肯定回答)	-	86%	84%	-	88%	84%
学校に行くのは楽しいと思いますか。(肯定回答)	85%	85%	88%	85%	86%	85%
スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性等があることを理解していますか。(肯定回答)	98%	98%	100%	99%	99%	100%

<学校質問紙調査> ※□は目標値を上回った回答率。

質問項目	小学校			中学校		
	R4	R5	R5 目標値	R4	R5	R5 目標値
教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の充実及び徹底を図っていますか。(積極肯定回答)	50%	44%	50%	41%	39%	42%
学校では、児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいますか。	63%	64%	64%	52%	50%	53%
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに幼児児童の姿について(就学前教育施設職員と小学校教員が)共有し、小学校の授業に生かしていますか。(肯定回答)	60%	80%	75%	-	-	-
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。(積極肯定回答)	50%	46%	52%	40%	28%	42%

(2) 積極肯定や肯定回答等の割合が増加傾向であり、これまでの学校の取組の成果として考えられる事項

①児童質問紙調査（小学校）から

質問項目	R4	R5	比較
学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか。(積極肯定回答)	46%	59%	△13%

②学校質問紙調査（小学校）から

質問項目	R4	R5	比較
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(積極肯定回答)	21%	23%	△ 2%
ICT 機器（パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネット等）を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。(積極肯定回答)	46%	60%	△14%
ICT 機器について、授業において主にどのように活用していますか。(複数回答可)			
(回答項目) 教材アプリの利用	78%	86%	△ 8%
(回答項目) 学習記録の蓄積	53%	62%	△ 9%
家庭学習の取り組み方や内容等について、校内の共通理解の下で指導していますか。(積極肯定回答)	65%	70%	△ 5%
家庭学習の意義や取り組み方について、主にどのような方法で保護者と共通理解を図っていますか。(保護者会等での説明と回答)	47%	60%	△13%
本年度の全国学調の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。(積極肯定回答)	28%	35%	△ 7%
授業改善に向けて、教員相互の授業参観にどの程度取り組んでいますか。			
(回答項目) 週に1回以上	2%	3%	△ 1%
(回答項目) 月に1回以上	59%	63%	△ 4%
同一校区の小学校（中学校）と、教育課程の接続や、教科に関する目標設定など、共通の取組を行っていますか。(積極肯定回答)	19%	26%	△ 7%
伝統的な文化芸術活動を学習または発表する活動を行っていますか。(積極肯定回答)	60%	65%	△ 5%
60（ロクマル）プラスプロジェクト」の推進に向けて、「運動習慣」「食習慣」「生活習慣」を相互に関連付けた一体的な取組とするために、担当者間で連携を図りながら取り組んでいますか。(積極肯定回答)	63%	70%	△ 7%
「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」を全教職員が理解していますか。(積極肯定回答)	8%	11%	△ 3%
「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」をもとに幼児児童の姿について（就学前教育施設職員と小学校教員が）共有し、小学校の授業に生かしていますか。(積極肯定回答)	18%	26%	△ 8%

③生徒質問紙調査（中学校）から

質問項目	R4	R5	比較
自分にはよいところがあると思いますか。（肯定回答）	72%	76%	△ 4%
学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか。（積極肯定回答）	40%	52%	△12%

④学校質問紙調査（中学校）から

質問項目	R4	R5	比較
児童生徒に対して、根拠や理由を示しながら、自分の考えを説明できるように指導していますか。（積極肯定回答）	39%	47%	△ 8%
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。（積極肯定回答）	14%	20%	△ 6%
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。（積極肯定回答）	34%	38%	△ 4%
ICT 機器（パソコン、タブレット端末、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネット等）を活用した授業を1クラス当たりどの程度行っていますか。（積極肯定回答）	77%	84%	△ 7%
ICT 機器について、授業において主にどのように活用していますか。（複数回答可）			
（回答項目）教材アプリの利用	68%	77%	△ 9%
（回答項目）オンライン授業	13%	18%	△ 5%
（回答項目）学習記録の蓄積	58%	68%	△10%
生徒一人一人に合った学習計画の立て方や内容について、家庭学習の取組を振り返らせる指導をしていますか。（肯定回答）	82%	84%	△ 2%
家庭学習の意義や取り組み方について、主にどのような方法で保護者と共通理解を図っていますか。（保護者会等での説明と回答）	16%	21%	△ 5%
本年度の全国学調の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（肯定回答）	72%	78%	△ 6%
本年度の全国学調の分析結果について、同一校区の小学校と成果や課題を共有しましたか。（共有した）	17%	25%	△ 8%
授業改善に向けて、教員相互の授業参観にどの程度取り組んでいますか。			
（回答項目）週に1回以上	0%	1%	△ 1%
（回答項目）月に1回以上	28%	37%	△ 9%
校内の授業研究会後に、今後すべての教員が取り組む内容（学校全体で取り組んでいくこと）について、確認していますか。（積極肯定回答）	48%	52%	△ 4%
伝統的な文化芸術活動を学習または発表する活動を行っていますか。（肯定回答）	60%	67%	△ 7%
いわての「授業ユニバーサルデザイン」について、校内の共通理解の下で取り組んでいますか。（積極肯定回答）	18%	24%	△ 6%
60（ロクマル）プラスプロジェクト」の推進に向けて、「運動習慣」「食習慣」「生活習慣」を相互に関連付けた一体的な取組とするために、担当者間で連携を図りながら取り組んでいますか。（積極肯定回答）	16%	32%	△16%

(3) 積極肯定や肯定回答等の割合が減少傾向であり、今後の学校の取組の課題として考えられる事項

①児童質問紙調査（小学校）から

質問項目	R4	R5	比較
学校の授業以外で1日にどれくらいの時間、読書をしますか。(30分以上)	44%	39%	▼ 5%

②学校質問紙調査（小学校）から

質問項目	R4	R5	比較
児童生徒に示す目標（めあて・ねらい）は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものとなるよう、吟味して示していますか。(積極肯定回答)	77%	73%	▼ 4%
授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果（又は課題）を実感できる振り返りとなっていますか。(積極肯定回答)	44%	39%	▼ 5%
児童生徒が分からなかったところや理解していないところを明らかにさせ、解決して（させて）いますか。(積極肯定回答)	41%	35%	▼ 6%
学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の指導を徹底していますか。(積極肯定回答)	35%	31%	▼ 4%
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。(積極肯定回答)	39%	32%	▼ 7%
どの児童生徒も伸ばすことを意識して、発展的な学習の指導を行っていますか。(肯定回答)	80%	71%	▼ 9%
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。(積極肯定回答)	30%	23%	▼ 7%
家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えていますか。(肯定回答)	72%	68%	▼ 4%
校内の授業研究会では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかについて協議を行っていますか。(積極肯定回答)	70%	60%	▼10%
教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の充実及び徹底を図っていますか。(積極肯定回答)	50%	44%	▼ 6%

### ③生徒質問紙調査（中学校）から

質問項目	R4	R5	比較
平日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか。（2時間以上）※経年比較を▼で表記。	56%	60%	▼ 4%
学校の授業以外で、平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（1時間以上）	66%	62%	▼ 4%
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。（肯定回答）	66%	50%	▼16%
学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか。（自主学習とは、自分で学習内容を決めて取り組むことを意味します）。（肯定回答）	56%	53%	▼ 3%

### ④学校質問紙調査（中学校）から

質問項目	R4	R5	比較
児童生徒に示す目標（めあて・ねらい）は、児童生徒の実態や、その時間に扱う学習内容に適したものであるよう、吟味して示していますか。（積極肯定回答）	74%	66%	▼ 8%
授業で行う振り返りは、児童生徒自身が学習の成果（又は課題）を実感できる振り返りとなっていますか。（積極肯定回答）	40%	34%	▼ 6%
学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の指導を徹底していますか。（積極肯定回答）	51%	39%	▼12%
児童生徒が自分で調べたことや考えたことを、分かりやすく文章に書く指導をしていますか。（積極肯定回答）	39%	35%	▼ 4%
学校の宿題などに加え、補充のための学習や発展的な問題に、児童生徒が自ら取り組める工夫をしていますか。（積極肯定回答）	25%	19%	▼ 6%
諸調査の結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか。（積極肯定回答）	40%	28%	▼12%

### ⑤児童生徒調査・学校質問紙調査の結果から

- ア 「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランに掲げる指標に係る質問（全13項目）に対する回答結果においては、
- ・昨年度の実績値を上回った項目は、小学校が3項目、中学校が2項目
  - ・今年度の目標値を上回った項目は、小学校が3項目、中学校が3項目
- イ 積極肯定や肯定回答等の割合が増加傾向の項目  
小学校が13項目／97項目、中学校が16項目／96項目であり、これまでの学校の取組の成果として考えられる。
- ウ 積極肯定や肯定回答等の割合が減少傾向の項目  
小学校が11項目／97項目、中学校が10項目／96項目であり、これまでの学校の取組の課題として考えられる。
- エ なお、各小・中学校においては、指導の一層の充実を図るため、以下の事項を参考にし、今後の取組を推進することが必要。

⑥学力向上に向けた本年度の取組 ※「学校教育指導指針」から抜粋。

<目標> つまづきを生かした児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上

<重点> 学校の組織的な取組を土台とした全県共通取組

- ・ 諸調査結果の積極的活用による検証改善サイクルの構築
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究の活性化
- ・ 児童生徒の発達の段階を考慮した家庭学習の内容の充実と習慣化
- ・ 学習の基盤となる言語能力の育成

<具体的取組>

下記のア～エについて、全県での共通の取組として、学校の組織的な取組の一層の強化を図る。

ア 諸調査結果の積極的活用による検証改善サイクルの構築

- ① 校長のリーダーシップの下で、自校が作成した「確かな学力育成プラン」に基づいて、主任層が中心となり、年間を通した取組で資質・能力の育成を図る。
- ② 諸調査の結果から学年や教科を越えた課題を洗い出し、全教職員で課題解決を図る。
- ③ 各教科で解決すべき課題について、教科担当を中心に校種や学年を越えた学習内容の系統性を踏まえた課題解決を図る。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究の活性化

- ① 単元や題材など内容や時間のまとまりで、身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりを実践する。
- ② 研究協議では、指導と評価の一体化の観点から、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたのかについて協議し、各教科の共通理解を図る。
- ③ 授業研究会や互見授業の目的、授業を見る視点等を校内で共有し、授業づくりについて校内の人材を積極的に活用しながら学年や教科を越えて教師同士が学び合う場を設定する。
- ④ 学校の実情に応じて、ICT 活用の目的や方法、場面等について学び合う場を設定する。

ウ 児童生徒の発達の段階を考慮した家庭学習の内容の充実と習慣化

- ① 家庭学習については、意義と自身の家庭での生活を関連付けて考えさせたり、学習計画の立て方や学び方について振り返らせたりしながら個々に合った学習習慣を確立させる。
- ② 家庭学習を宿題と自主的・自発的な学習に分け、自主的・自発的な学習については、個々の学習内容や取組方法等について評価したり、アドバイスしたりしながら質的な改善を図る。
- ③ ICT の活用を学校内に留めず、新たな学びのツールとして家庭学習での活用についても校内で共通理解を図り、保護者の理解と協力を得ながら活用の充実を図る。
- ④ 幼小中高といった異校種間の連携の視点とする。

エ 学習の基盤となる言語能力の育成

- ① 教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」の指導の充実及び徹底を図る。
- ② 授業においては各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける。
- ③ 幼小中高といった異校種間の連携の視点とする。

## 1 学校の組織的取組の一層の強化に向けた学校支援

県教育委員会では、「確かな学力の育成のための目標と重点」を、上記「④学力向上に向けた本年度の取組」のとおり示しており、その実現に向けて、学校の組織的取組の一層の強化に向けた「確かな学力育成プラン」に基づく学校支援に取り組んでいる。

## 2 各公所の連携

各機関が連携し、調査結果を踏まえた取組を推進することが必要。

(記載内容は、「令和5年度岩手県中学校新入生学習状況調査結果の概要について」と同様。)

(1) 学校 ※本資料にこれまでの記載のとおり。

(2) 市町村教育委員会

所管の学校の調査結果についての分析を進めた上で、各学校に対しては、状況に応じて、以下の事項について取り組むことが考えられる。

- ・校長会議や主任層を対象とした会議・研修会等で、本調査結果を踏まえ、小・中学校が校種を越えて児童生徒のつまずきへの対応や資質・能力の育成に向けて取り組むための資料として活用する。
- ・「確かな学力育成プラン」に基づいた取組について、支援を継続する。
- ・資質・能力の育成を目指す授業研究会の在り方について、各校への指導・助言を強化する。
- ・その他、必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。

(3) 教育事務所

管内の学校の調査結果についての分析を進めた上で、市町村教育委員会と連携し、以下の事項について取り組むことが考えられる。

- ・各学校における調査結果の分析を活用した「確かな学力育成プラン」を基にした組織的な取組の強化について、各種研修会や訪問指導等を通じて、継続的に支援していくこと。
- ・教科調査等で明らかになった課題について、その解決を図るための授業について提案する機会を持つ。
- ・その他、必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。

(4) 県教育委員会

教育事務所、市町村教育委員会と連携し、以下の事項について取り組む。

- ・教科調査結果と質問紙調査結果から分析資料を作成し、各学校での分析の手法として提供していく。
- ・各学校における調査結果の分析を活用した「確かな学力育成プラン」を基にした組織的取組の強化について、各種研修会や訪問指導等を通じて、継続的に支援していく。
- ・分析結果を各学校への個別訪問の際に活用しながら、授業改善に活かし、指導と評価の一体化を一層推進していく。
- ・諸調査結果を効果的に活用し、組織的取組を土台とした授業改善を推進する学校の実践事例の普及・拡大に取り組む。
- ・資質・能力の育成を目指した授業研究会の在り方や、研究主任への指導について、指導主事と共通理解を図る。
- ・必要な指導、助言や支援等を行う。
- ・学校における諸課題について、改善の取組を促すとともに積極的に支援する。